

# 八戸 9月号 レポート

平成27年8月の八戸市内での出来事や、八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

No.	項目
1	八戸市2060年人口推計 現状続けば12万人に減少
2	八戸市 保健所新設で異例の職員追加募集
3	八戸市が「(仮称)八戸フックセンター」の施設概要を発表
4	「中核市」移行に向け市民シンポジウム開催
5	日中友好に尽力した功績をたたえ 鈴木継男氏 名誉市民に

## 【産業】

No.	項目
6	航空機部品製造の模本ビーエー(岐阜)が八戸事業所開設へ
7	八戸市がツムラと協定締結 薬用作物の共同研究へ
8	北インター工業団地 大区画を分割分譲へ

## 【地域】

No.	項目
9	JR本八戸駅リニューアル 木目調と白しっくいを組み合わせ町屋調に
10	八戸三社大祭 「安全運行」に徹しフィナーレ
11	イカの日(8月10日) 解剖や釣り体験でイベント満喫
12	「子ども映画教室」開催 映画作りに小学生30人が挑戦
13	珍しい昆虫「アカマダラセンチコガネ」 県内で初採取
14	八戸出身の最年少ダービー騎手前田長吉 主人公にした漫画のムック本発売
15	八戸花火大会に9万人 ～大輪5000発 夜空彩る～
16	南郷「山の楽校」 ソバの花と200万本のヒマワリが満開
17	日本さかな検定 鮮魚店「福真」の福田真幸さんが八戸初の1級合格
18	～三浦哲郎の足跡 後世に～ 資料852点八戸市に寄贈へ
19	南極観測隊に青森県出身の渡貫淳子さん、渡邊創さんが参加

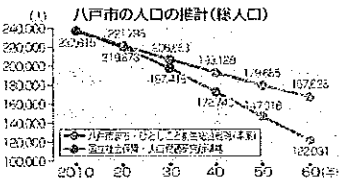
## 【文化・スポーツ】

No.	項目
20	八戸港ポートアイランドで「八戸港カッターレース」開催
21	ご当地イカ料理コンテスト 中村さん(千葉高)が最優秀賞!
22	大相撲夏巡業「八戸場所」開催 16年ぶりの巡業にファン3700人堪能
23	なでしこ佐々木監督のサッカー教室開催 ～目指せ未来の「日本代表」～

## 【県内】

No.	項目
24	青森県 目撃情報相次ぐニホンジカの対策強化へ
25	2014年青森県農水産物輸出額 過去10年間で最高の156億円

【 行政 】

No.	レポート
1	<p><b>八戸市2060年人口推計 現状続けば12万人に減少</b></p> <p>八戸市は、「市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の素案を公表し、将来人口の推計を明らかにした。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると、現状のまま人口減少が続いた場合、市の人口は現在の約23万人から2040年に約17万2千人、2060年に12万2千人にまで減少する。今後5年間で就業機会の創出や交流人口の拡大、出産・子育て環境の充実などに取り組む方針を掲げ、国や県と連携して人口減少を可能な限り食い止めることを目指す。</p> 
2	<p><b>八戸市 保健所新設で異例の職員追加募集</b></p> <p>八戸市は2017年1月1日の中核市移行に伴う市保健所の新設に向け、来春採用する獣医師2人と薬剤師3人の追加募集を始めた。6月の採用試験で薬剤師が募集定員割れだったのに加え、新設時に想定している獣医師数の充足が厳しいと見込んだため。同市が職員の追加募集をするのは異例という。市の担当者は「熱意を持ち、八戸のため頑張っていたただけの方に応募してほしい」と話している。</p>
3	<p><b>八戸市が「(仮称)八戸ブックセンター」の施設概要を発表</b></p> <p>八戸市は六日町に建設される複合ビル2階に開設する、主に大人を対象とした本のセレクトショップ「(仮称)八戸ブックセンター」の施設概要を発表した。主な運営は市が行い、業務の一部は地元書店に委託。内装などを含む初期費用が約1億1千万円、家賃や委託料など運営経費は年間約6千万円を見込む。一つのテーマに沿った多彩な分野の本を同じ棚に陳列して新たな本との出会いを後押しするほか、書きかけをつくるワークショップや本のフェアを開催する。</p>
4	<p><b>「中核市」移行に向け市民シンポジウム開催</b></p> <p>2017年1月1日の中核市移行と、その後の「連携中核都市圏」の形成を目指す八戸市は、住民らに制度への理解を深めてもらおうと、8月22日、八戸グランドホテルでシンポジウムを開催した。参加した市民ら約200人に対し、移行後の自治体運営の進め方などについて説明した。小林真市長は、保健所業務など約2千の事務権限が県から移譲されることを説明し、「都市の自立性が高まり、きめ細かなサービスが提供できる」と中核市移行の意義を強調した。</p>
5	<p><b>日中友好に尽力した功績をたたえ 鈴木継男氏 名誉市民に</b></p> <p>八戸市が、元八戸ガス社長で市美術館名誉館長の鈴木継男氏(91)に、名誉市民の称号を贈る方針であることが分かった。日中友好に尽力した功績をたたえる。鈴木氏は中国蘭州市のガス事業発展に貢献し、1993年に蘭州市栄誉賞を受賞。文化交流にも力を入れ、八戸市と蘭州市の青少年交流事業に30年間携わっている。また、妻のあじやさんとともに多数の絵画を八戸市に寄付。市は2012年、「文化の礎頭彰」を創設し、二人の文化振興への貢献をたたえた。9月の市議会定例会で提案する見通しで、承認されれば5人目となる。</p>

【 産 業 】

No.	レポート
6	<p><b>航空機部品製造の榎本ビーエー（岐阜）が八戸事業所開設へ</b></p> <p>航空機部品を製造する榎本ビーエー（岐阜県）が、八戸市北インター工業団地に八戸事業所を開設し、部品加工のためのプログラム作成などを手掛けることが分かった。八戸事業所が開設されるのは、八戸インテリジェントプラザ内。アルミ板などから部品を効率良く削り出すためのプログラムの作成や、加工の際に部材を固定する「治具」の開発、設計を行う。2017年2月の操業開始を目指す。市によると、航空機関連企業の誘致は市内で初めてとなる。</p>
7	<p><b>八戸市がツムラと協定締結 薬用作物の共同研究へ</b></p> <p>八戸市は本年度から、医薬品製造販売大手のツムラ（東京）と薬用作物の室内栽培に関する共同研究に取り組む。近く協定を締結し、気候に適した品目の選定や生産手法の確立を目指す。研究は、市農業経営振興センターのガラス温室2棟と、今春閉校した旧松館小校舎の2、3階を使用し、室内に栽培用の棚を設置してポットで栽培する。ツムラによると、栽培するのはシャクヤクや薬用ニンジン、オウレン、サイシン、トウキなどの品目を想定。順調に進めば2019年度ごろに有望な品目を絞り込む。</p>
8	<p><b>北インター工業団地 大区画を分割分譲へ</b></p> <p>八戸市は北インター工業団地内にある約9ヘクタールの大区画について、分割して分譲する方針を示した。現在の分譲率は79.4%で、近く8割を超える見通しとなっているが、近年は1ヘクタール程度の分譲を希望する企業が多くなっており、こうした声に対応する。市産業振興課は「近年、用地面積に関する相談や問い合わせが増え、企業進出の機会を失いかねない状況となっている。ニーズに合わせることで、企業誘致を促進したい」としている。</p>

【 地 域 】

No.	レポート
9	<p><b>JR本八戸駅リニューアル 木目調と白しっくいを組み合わせ町屋調に</b></p> <p>7月31日にJR八戸線の本八戸駅がリニューアルオープンした。大規模な改修は高架駅舎化した1977年以降、今回が初めてとなる。改装はホーム部分を除く駅舎全体で行われ、外観や内装は藩政時代をほうふつとさせる町屋調とし、白しっくいの外壁、格子窓、茶色や黒色の色合いの建具などを導入。南北の入り口付近のタイルも張り替えた。同日は大勢の市民が見守る中、記念式典が行われ、駅名標の除幕が行われた。地元の籠（おがみ）神社による法霊神楽が披露されたほか、ご当地キャラクターも駆け付けてリニューアルを盛り上げた。</p>
10	<p><b>八戸三社大祭 「安全運行」に徹しフィナーレ</b></p> <p>青森県南最大の祭り・八戸三社大祭が、8月4日の後夜祭でフィナーレを迎えた。後夜祭の会場ではあかね色に染まった空にライトアップされた山車が幻想的に浮かび上がり、訪れた人を魅了した。今年は金曜日から始まる日程で天候にも恵まれ、期間中の入り込み数は、ここ10年で3番目の96万人になった。一方、主催者側と祭り関係者は「安全な運行」を第一に掲げ、1日の「お通り」では強風のため山車の仕掛け「せり上がり」を禁止し、また昨年事故を受け、馬の頭数を減らして注意喚起を周知するなど、安全確保を徹底した。</p>

11	<p><b>イカの日（8月10日） 解剖や釣り体験でイベント満喫</b></p> <p>八戸市水産科学館マリエントは、8月10日に「八戸イカの日」を記念したイベントを行い、子どもたちがイカの解剖をはじめ、イカ料理、イカ釣り体験など、イカづくしの半日を楽しんだ。8月10日の同記念日は、「イカの街はちのへ連絡協議会」がイカの消費拡大を目的に、八戸の「8」とイカの10本の足にちなみ2010年に制定した。メインイベントは食用イカで世界最大のアメリカオオアカイカの解剖実験。ペルー沖で捕獲した胴長1メートル12センチ、体重59.1キログラムの巨体に子どもたちは目を丸くした。</p>
12	<p><b>「子ども映画教室」開催 映画作りに小学生30人が挑戦</b></p> <p>子どもたちが3日間の日程で映画を制作する「子ども映画教室」が、8月7～9日に「はっち」で開かれた。あおもり映像芸術振興プロジェクト実行委員会の運営で、青森県では昨年の弘前市に続いて2回目。特別講師に青森市出身の映画監督、横浜聡子さんを迎え、県内外から約30人の小学生が参加した。子どもたちは機材を使って市内各地で撮影し、編集やポスター作りも含めてオリジナルの映画を完成させた。</p>
13	<p><b>珍しい昆虫「アカマダラセンチコガネ」 県内で初採取</b></p> <p>八戸市の主婦四本木加奈子さんが、コガネムシの一種である「アカマダラセンチコガネ」を南郷で採取した。アカマダラセンチコガネは6月中旬から7月上旬までの間、日中から夕方にかけて地表約20センチを飛び回る。1センチほどの虫で、目に付きにくく、発見が難しいことから採集例は全国的にも少ない。八戸昆虫研究会によると、青森県内で採取し記録されたのは初めて。趣味で昆虫の飼育や採集をしている四本木さんは「今まで捕ったことがない虫なのでうれしい」と喜びを語った。</p>
14	<p><b>八戸出身の最年少ダービー騎手前田長吉 主人公にした漫画のムック本発売</b></p> <p>八戸市(旧是川村)出身で、日本ダービー制覇の最年少記録を持つ騎手前田長吉(1923～46年)を主人公にした漫画が掲載されたヤングアニマル特別編集戦後70年記念ムック『漫画で読む「戦争という時代」』が白泉社から発売となった。掲載作品は、競馬漫画「優駿の門」シリーズで知られるやまさき拓味さんの「新 優駿たちの蹄跡～最年少ダービー騎手前田長吉～」。少年時代のエピソードや、名馬クリフジに騎乗し制した日本ダービー、敗戦後の過酷なシベリア抑留、遺骨の帰郷までを描いている。</p>
15	<p><b>八戸花火大会に9万人 ～大輪5000発 夜空彩る～</b></p> <p>8月16日、第35回八戸花火大会が館鼻岸壁で開かれた。日本青年会議所「全国大会東北八戸大会」(9月24～27日)開催も記念した花火大会は午後7時すぎに開幕。色鮮やかなスターマインを皮切りに、今年10月に十和田で開かれるB-1グランプリをPRするメッセージ花火や、八戸を舞台とした映画「ライアの祈り」をイメージした花火も打ち上げられた。約9万人の観衆が夏の夜空に咲いた約5千発の大輪を満喫した。</p>
16	<p><b>南郷「山の楽校」 ソバの花と200万本のヒマワリが満開</b></p> <p>南郷地区の青葉湖展望交流施設「山の楽校」の畑で、ソバの花と約200万本のヒマワリが満開を迎え、白と黄色の花畑が夏の山あいの風景を彩っている。ヒマワリの植栽は8年目。今夏は昨年より0.7ヘクタール広げ、1.8ヘクタールの畑に植え、本数も約30万本増やした。南郷特産のソバの植栽は10年目で、今年は3ヘクタールに植えた。岩崎光宏楽校長によると、今年は好天が続く順調に生育し、例年より背が高いという。</p>



17	<p><b>日本さかな検定 鮮魚店「福真」の福田真幸さんが八戸初の1級合格</b></p> <p>八戸市など全国12会場で、6月に開かれた第6回日本さかな検定で、八戸市の鮮魚店「福真」八食センター店長の福田真幸さん(62)が、難関の1級に合格した。日本さかな検定は、日本の魚食文化を振興し、魅力を広めるための趣味検定。今回は全国の延べ3163人が出願、八戸会場には延べ83人がエントリーした。主催の日本さかな検定協会によると、開催2年目の八戸会場では、1級合格者が2年間でただ1人。</p>
18	<p><b>～三浦哲郎の足跡 後世に～ 資料852点八戸市に寄贈へ</b></p> <p>2010年に79歳で亡くなった八戸市出身の芥川賞作家・三浦哲郎さんの親友で、同市の歯科医・立花義康さん(2013年3月死去、82歳)が収集した三浦さんに関する資料852点が、家族から市に寄贈される。立花さんが三浦さんから贈られた書やサイン入り初版本、写真などで、中でも心の内をつづった手紙やはがきは創作の原点ともいうことができ、三浦文学をひもとく上で貴重な資料という。市は「短編の名手」といわれた三浦さんの魅力を末永く伝えるため市立図書館で保管し、資料の一部を今秋、期間限定で展示する。</p>
19	<p><b>南極観測隊に青森県出身の渡貫淳子さん、渡邊創さんが参加</b></p> <p>第57次南極観測隊の越冬隊に青森県出身者2人が隊員として参加する。八戸市出身で調理を担当する渡貫淳子さん(41、都内在住)と、十和田市出身で通信を担当する渡邊創さん(33、同)。「隊員それぞれの出身地の調味料を使うことなどで、メンタル面でも隊員をサポートしたい。八戸のせんべい汁も作る予定です」と渡貫さんは熱い思いを語る。一方、渡邊さんは総務省で通信関係を担当してきた。昭和基地では野外調査を行う隊員との交信や機器のメンテナンスを担当する。越冬隊は2017年2月までの約1年間、南極に滞在して研究や観測を続ける。</p>

【文化・スポーツ】

No.	レポート
20	<p><b>八戸港ポートアイランドで「八戸港カッターレース」開催</b></p> <p>8月9日に八戸港カッターレースが、八戸港ポートアイランド第2船だまりで開かれた。このカッターレースは今年で10回目となり、出場チーム数は、横浜港、神戸港に次ぐ全国3位の規模。75チームが熱戦を繰り広げ、横浜市の「T.I.T CUTTERCLUB」が2分51秒77のタイムで優勝を飾った。レースには、会場に詰め掛けた参加者や仲間だけでなく、付近を通り掛かった港内遊覧船の乗船客からも盛んな拍手や声援などが送られていた。</p> 
21	<p><b>ご当地イカ料理コンテスト 中村さん(千葉高)が最優秀賞!</b></p> <p>「八戸イカの日」(8月10日)を記念する「第2回ご当地イカ料理コンテスト」最終審査会が、8月9日にはちで開かれた。審査の結果、千葉学園高調理科2年の中村彩乃さんが出品した「いかぞうのすけ」が、最優秀賞に輝いた。中村さんの作品は、イカの胴体に、切り餅、刻んだ足やニンジン、シタケを詰め込んだ雑煮。地方で特色の異なる料理で、八戸らしさを出せるように工夫したという。会場では、イカ料理が振る舞われたほか、来場者がスルメイカが当たるクイズに挑戦。八戸高応援団がイカ踊りを披露し、セレモニーを盛り上げた。</p> 

22	<p><b>大相撲夏巡業「八戸場所」開催 16年ぶりの巡業にファン3700人堪能</b></p> <p>大相撲夏巡業の「八戸場所」が8月19日に八戸市体育館で開かれた。同市での開催は1999年8月以来16年ぶり。午前8時に朝稽古や握手会が始まり、子どもと人気力士の相撲、幕下以下の取組と続いた。相撲の禁じ手を面白おかしく実演する「初っ切り」や、力士が美声を披露した相撲甚句など、巡業ならではの多彩なプログラムも観客を沸かせた。満員御礼の約3700人が力士の豪快な取組を堪能し、会場は本場所さながらの熱気に包まれた。</p>
23	<p><b>なでしこ佐々木監督のサッカー教室開催 ～目指せ未来の“日本代表”～</b></p> <p>サッカー女子日本代表「なでしこジャパン」の佐々木則夫監督が講師を務めるサッカー教室が、8月20日に八戸市東運動公園陸上競技場で開かれた。青森県内の女子小中学生約110人が参加し、約90分の練習に臨んだ。初めにボールタッチやドリブルの感覚を養う練習で体を動かした後、ゲーム形式の練習に。パスの場面では、佐々木監督が手ぶりを交え、パスの出し方や体の使い方などを試合さながらに指導していた。</p>



【 県 内 】

No.	レポート
24	<p><b>青森県 目撃情報相次ぐニホンジカの対策強化へ</b></p> <p>青森県南地方を中心にニホンジカの目撃情報が相次ぎ、食害に対する懸念が強まっている。隣県の岩手県での農業被害は年間約3億円に及んでおり、農業を基幹産業とする青森県にとって問題が深刻化する恐れがある。そのため県は専門家などによる委員会を設置し、対策に本腰を入れて取り組む。当面の対策として、県は11月から三八地域でシカを追い込んで捕獲する「巻き狩り」やシカを待ち伏せする「しのび猟」を行うことを明らかにした。</p>
25	<p><b>2014年青森県農水産物輸出額 過去10年間で最高の156億円</b></p> <p>2014年の青森県内の農水産物輸出額が約156億2500万円となり、過去10年で最高となった。内訳をみると、リンゴは輸出額の中で最多の約69億7700万円(前年比13.5%増)。品質の良さが評価され、台湾や香港向けに輸出が増加した。ナガイモは県などの販売促進活動が功を奏し、約3億3500万円(231.3%増)と大幅増。近年、日本食ブームを背景に米国やオランダ、台湾などへの輸出が拡大した。</p>

平成27年 9月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成27年9月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

現在、毎年恒例の『ゆるキャラ(R)グランプリ 2015』が開催されており、八戸市からはおなじみ、『いかずきんズ』がエントリーしています。

昨年は1,699体(ご当地1,168、企業531)のうち、第251位とがんばりました。今年も、八戸をもっと元気にするために一生懸命がんばっていますので、皆さまの応援をよろしくお願いします。

### 記

1. 投票方法 「ゆるキャラ(R)グランプリ 2015」公式サイトにて、パソコン・スマートフォン・携帯電話から1日1回投票できます
2. 投票期間 8月17日(月)10:00 ~ 11月16日(月)18:00  
※11/21(土)~11/23(月祝)には、ゆるキャラ(R)グランプリ 2015in 出世の街浜松にて、決戦投票と表彰式が開催される予定です。
3. 結果発表 11月23日(月・祝)



こうみちゃん & こかぶくん

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-2 全国都市会館 5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp